小和山帝碑 蜀琴堂 全三冊

へ13
2946
141

141
へ13
2946
141

小夜中山霊鶯碑

新坂蕨餅児育飴由來傳世夜啼碑
鯨音断絶無間事大士方便垂大慈

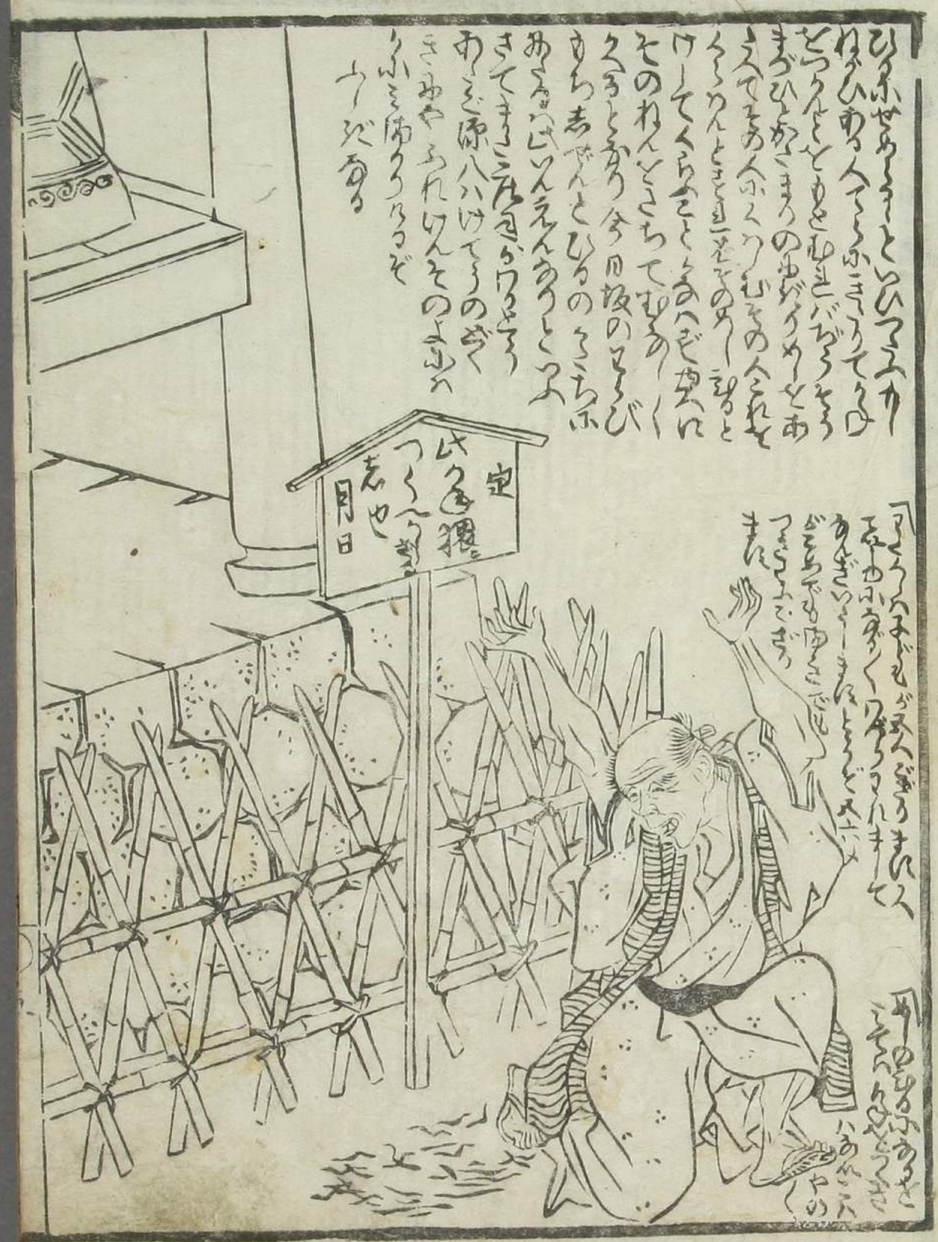
壬戌年余浪華ゑ遊歴し。遠列小夜の中山と遇の日。短間山の縁起三綴と買得さう。因て是を翻案して者個の椿史を作る。通計八回目次左の如し

○河井庄司霊夢を感話○刄の雉の説并無間乃鐘の事
○鶴見稲九郎庄司夫婦と殺○河井七八郎と傳所夜泣石の事
○子育観音利益飴の餅の事○七八郎敵とねらふ事
○女児連と傳ゑ身代観音縁起○月の輪乃里敵討の事

享和四年甲子上月　正月　著作堂馬琴著

作者曰

耳畔向君告代筆
清石高股肱粉
別録酒義人録


定
月日

中山
「やうんとあ
「いあらいろさ、
ふてえ
稲

稲

西方浄土
「ごくらくのてら
のまち」
「こんやも又あらを
くひふきまりさ
ぶがようなり」

名物
「ぶくちゃ
「ふるさとの
ちゃくらいことど
ら」

「ふふふれんぢん
をえてよろこぶあちげくや
「むりあるまい
ちのところへ
おちうてたの
わく井戸とする

「ふふふかさ
ぶるぶるぶるぶる
「ふびんくれんぢん
とてげめぐらく
きさんやきれ
「ふふふ
ぶるぶるぶるぶる
「くれんぢんの
上人ひろうみちちの
くれあるくうさちけう

稲

「さてはかやのあだこころ
くたいみ
九ふでもん
ろかさで
けるい」

「ふさまい神さてあちこと
さもむこものさいもんを
のびいもと」

茅兄和好是禎
祥何笑世人錯
主張

◎

膠漆
厚自永骨肉友
秀高

「いるかぶくぶくぬ
きうりうりう
ふそうちう
のやうとと
とうがら
ハテ
がてんのゆく

枯樹遇春

曲亭馬琴作

いち川